

神様と作った四神タロット

大アルカナ解説ブック



# もくじ

## はじめに

### それぞれのカードの紹介

- 0 夢見ること ～少彦名命・大国主命～
- 1 旅の始まり ～熊野大神・賀茂建角身命～
- 2 道しるべ ～市杵島姫神～
- 3 宝物 ～天照大御神～
- 4 孤高 ～須佐之男命・牛頭天王～
- 5 受けて立つ ～建御名方神～
- 6 他の選択肢 ～神産巢日神～
- 7 挑戦 ～武甕槌神～
- 8 本当に大切なこと ～稻荷神～
- 9 迷子 ～大山咋神～
- 10 運命 ～天之御中主～
- 11 愛と勇気 ～住吉三神～
- 12 恍惚 ～木花開耶姫～

- 13 喪失 ～伊邪那岐命～
- 14 受容 ～瓊瓊杵尊～
- 15 逃げる ～大国主命～
- 16 崩壊 ～伊邪那美命・菊理媛神～
- 17 清め水 ～瀬織津姫～
- 18 暗い見通し ～月讀命～
- 19 今日という奇跡 ～天照大御神～
- 20 みちひらき ～猿田彦大神～
- 21 世界 ～高御産巢日神～

## カードを使う方法

## 手順の説明

## おわりに

## 【はじめに】

『神様と作った四神タロット』は、神様のお得意なことと、人間の状態のベストマッチングのためのカードです。

一般的には「御利益」と呼んで、神様や神社からどんな御神徳が得られるのか？という捉えられ方をしますね。けれど、このカードで出てくるのは、神様に伺った、《神様ご自身の得意なこと、得意技》です。

得意技は御利益とズレがあるものもあるでしょう。同時に、得意技を知ること、「なぜこの神様は〇〇の神と呼ばれているのか」がすっきりとわかるケースもあります。

アドバイスで現れたカードの内容を、実際にやってみるのが難しく感じる時は、そのカードの神様に、お力添えをお願いするのがおすすめです。

神様はいつでも、もっと応援したい！支援したいと、待ってくださっていますよ！

## 【それぞれのカードの紹介】

### 0 夢見ること ～少彦名命・大国主命～

このカードは、「叶えたい夢を持つこと」のカードです。

スクナビコナの神様に得意技をお伺いすると、背中から頭の付け根にかけて、チャックをしめるように、グググーっと閉まっていきました。そうすると、人間の体の構造上、どうしても下を向くことはできず、背筋がずっと伸びて、しっかりと前を見据える姿勢になりました。

どんなにうつむいて、将来を悲観していたとしても、前を向くことしかできなくなるのです。

描かれているのは、スクナビコナの神様とオオクニヌシの神様が、夕方の海辺で何かを指さしているお姿です。この二柱は、「この国を良くしたい！！」という夢を抱いて、旅をしていました。《国造り》として、神話で登場しますね。神話の中でも、とても仲良しで、おふざけもしながら、楽しく旅をした姿が描かれていますが、汗をかいても、汚れても、心からの笑顔があふれるのは、二柱には

「この国を良くしたい！」という夢があるからです。

絵柄の左側、海や浜辺の部分が、夕日と海の水の色合いが重なり合って、虹のようになっているのには、お気づきでしょうか。この色合いになることを意図していなかったのですが、神様のご指示の通りに色をのせたら、この色合いになりました。奇しくも、指を指しているのは、虹色の彼方のどこか。このカードが示しているのは、「虹の向こうにあるような心躍る夢を持ちましょう」ということなのでしょう。仲良しの二柱で揃って、夢を持っていないと感じている人に、支援したい、とのことでした。

このカードが

- ・状況で現れた時は「叶えたい夢を持っている」
- ・潜在意識で現れた時は「秘めているものの、叶えたい夢がある」「叶えたい夢のことを思っている」
- ・アドバイスで現れた時は「あなたの夢は何ですか？  
叶えたい夢を持ちましょう」

と読むといいでしょう。

#### 4 孤高 ～須佐之男命・牛頭天王～

このカードは「孤高でも、ここに立つ」「自分のやり方はこう」「自分はこうしたい、ということ貫き通す」のカードです。

何かを迷っている時に、スサノオノ命様にお伺いすると、「お前は どうしたいんだ？」「誰が何と言おうと、お前が どうしたいかが全てだろう」と、何者にも流されない強さを持つよう、促されます。

そんなスサノオノ命様が見せてくださったのは、朝日を背に受けながら、岩の上に立つ人の姿でした。

周りに迎合せず、たとえ孤独でも、一人きりでも、自分がよいと思うこと、自分がしたいと思うことを貫き通す強さを持つこと。何事も、そこから始まるのだ、ということでした。

ところでスサノオノ命様に、カードにご参加いただけるかお伺いすると、「うーん、参加しないってわけじゃない



んだけど…」とずいぶんとためらったお返事でした。

よくよく伺うと、スサノオノ命様だけでなく、ゴズテンノウ様も、ご一緒に参加でいきたいとのこと。スサノオノ命様=ゴズテンノウ様とされているので、「ということは、スサノオノ命様でいいですね！」とお返事すると、「そうじゃないんだ、それぞれなんだ」とのことでした。

同一神とされている2柱、どちらも自分を貫く強さを、私たち人の子に、きっと授けてくださるでしょう。

このカードが

- ・状況で現れた時は「自分の意志や想いを貫いている」
- ・潜在意識で現れた時は「自分の意志ややり方を貫きたい」「周りに迎合せず、自分自身を貫きたい」
- ・アドバイスで現れた時は「誰が何と言おうと、あなたはあなたの在り方・やり方を貫きましょう。周りを気にしたり、誰かと比較するのは必要ありません」

と読むといいでしょう。

## 7 挑戦 ～武甕槌神～

このカードは「新しい世界に挑戦する」のカードです。

タケミカヅチノ神様は、「国を譲りなさい」と、高天原から交渉のために降りてきた神様です。カードに描いたのは、神様のご希望の絵柄なのですが、長い長い朱塗りの梯子で、未開発の自然が美しい場所に、降りてきている姿でした。

ところで、絵柄をお伺いする前に、そもそもご参加いただけるかを伺った時に、見せてくださったのは、神様ご自身は雲の上において、雲の上から、下の世界を見ているビジョンでした。下の世界を見ながら、神様は「美しい国だなあ。絶対にこの国を手に入れるぞ！」と、美しさを愛でる気持ちと、新しい世界を手に入れられるご自身の成功を、確信している気持ちをお持ちでした。

この初めのビジョンから、「神様はふわりと飛んでいくのだろう」と私は思っていたのですが、まさかの梯子が登

場。ふわりと飛んで交渉するだけの楽な仕事かと思ったら、危険の伴う大変な任務だったようです。

それでも神様は、梯子を下りながらも美しい国を眺め、ご自身の成功に、全く疑いを持っていなかったのです。

そんな神様のご様子や、絵柄になったビジョンからわかるのは、私たちが何かに挑戦する時には、タケミカツチの神様のように、シンプルな心で、何の疑いもなく、自信と、挑戦していく先への愛を持って挑むこと。それが成功の秘訣、ということでしょう。

激しくお腹がゾワゾワする、強烈なエネルギーで、立ち向かっていく自信と強さを分けてくださる神様です。

このカードが

- ・状況で現れた時は「新しいこと(世界)に挑戦している」
- ・潜在意識で現れた時は「新しく挑んでいきたい」「(シンプルな心で、自信がある状態でありつつ)挑戦したい」
- ・アドバイスで現れた時は「新しい世界に挑みましょう」

と読むといいでしょう。

## 11 愛と勇気 ～住吉三神～

このカードは「怖い気持ちを乗り越えて、愛でもって挑戦していく勇気」のカードです。

海で生まれた3兄弟の神様、住吉三神様にお伺いすると、胸の、中でもみぞおちの辺りに、ビリビリと強いエネルギーを向けてくださいます。

いわゆる、「胸のチャクラ」の場所にとっても響くのですが、胸のチャクラは、愛のエネルギーを高めてくれる場所とされています。

実際、住吉三神様にお伺いすると、自分の中の怖い気持ちや迷い・恐れよりも、遥かに強く「自分の大切にしたいこと、愛情や情熱を向けられることのために、挑戦していこう」と思える、前向きな気持ちに変化します。

なぜ、住吉三神様が、遣唐使や船乗りなど、海に漕ぎ出す人々に大切にされてきたのかと考えた時に、海に漕ぎ出して行って、そのまま命を落とすかもしれない恐怖

よりも、「外国で学びたい！祖国にたくさんの教えを持ち帰りたい！」「家族のためにたくさん魚を獲ってきたい！」のような、熱意や情熱、愛の方をより強くしてくれるからだったのではないか、と気がつきました。

そんな住吉三神様が見せてくださったのは、航海に出たばかりの、船に乗る若者の姿でした。神様の後押しで、胸が愛のエネルギーで光っている若者のように、怖い気持ちに負けてしまいそうな人には、住吉三神様がきつと、お力添えをしてくださるでしょう。

このカードが

- ・状況で現れた時は「怖い気持ちに打ち勝って、(愛や情熱を傾けられることのために)挑戦している」
- ・潜在意識で現れた時は「怖い気持ちはあるものの、それでも、愛を向けられることに挑戦していきたい」
- ・アドバイスで現れた時は「怖い気持ちはあっても本当に大切にしたこと・愛を持てることに、挑戦しましょう」

と読むといいでしょう。

## 18 暗い見通し ～月讀命～

このカードは一言で言うと「不安」のカードです。同時に、「不安な時は、悪い考えでいっぱいになっているのをやめて、冷静になるのが必要」と、不安との向き合い方を教えてくれているカードでもあります。

カードに描かれている人は、これから夜の山を登る必要があるようです。自分の行く先を案じて、そして困難さを想像して、山の前で立ち止まってしまっています。

私たちが不安になる時は、このカードの人のように、これから先のことを、悪く考えて、悲観して、不安になっていると思いませんか。

けれどそんな不安は、まだ現実のものにはなっておらず、実際その通りになるかは、決まっていないのです。

ツクヨミの命様が教えてくださったのは、「不安な時は、悪い考えでいっぱいになっているのをやめて、冷静になるのが必要」という不安との向き合い方でした。

そしてツクヨミの命様は、このカードのように、ふんわりと優しい、包むような、慰めるような、優しいエネルギーを向けてくださいます。

真っ暗なような気がしていても、月の光が優しく夜道を照らしているように、「暗い見通しは自分自身の内側にあるだけで、冷静になってみれば、見通しはそんなに暗くないよ」と、ツクヨミの命様は教えてくれました。

このカードが

- ・状況で現れた時は「不安になっている・不安を抱いている」
- ・潜在意識で現れた時は「(自覚していなかったとしても)心の深い部分に不安がある・不安を感じている」
- ・アドバイスで現れた時は「不安になっているだけです。ひとまず冷静になりましょう。あなたが想像しているよりも、未来は明るいですよ」

と読むといいでしょう。

## 【カードを使う方法】

こちらのページでは、実際にカードを使う方法を解説します。

次の【手順の説明】で紹介するスプレッド(カード展開)は、〈状況〉〈潜在意識〉〈アドバイス〉のみの、小さなスプレッドです。しかし私が使っているほぼすべてのスプレッドで、〈過去・現在・未来・潜在意識・アドバイス〉は、必ず登場するので、そういう意味では、最も基本的なスプレッドです。ここから肉付けして、もっと深く読めるようになる、ベースのスプレッドとも言えます。

もちろん、紹介するスプレッドを使わずに、トランプのカードを切るように混ぜて、1枚だけ引いてもよいでしょう。その場合は、現れたカードはアドバイスとして読むといいでしょう。

手順の紹介の前に、カードを引く上で、最も基本的で、大切なことを書きます。



それぞれのカードの紹介ページの最後に、現れたポジションごとの読み方を、めやすとして書きました。初めての方にも、カードを読みやすいように書きましたが、最も大切なのは、言葉の意味ではなく、「このカードはこういうことを表している」という概念をつかむことです。

このカードは何を表しているのか、という抽象的な概念をつかむと、〈どんなコンビネーションでカードが現れたか〉〈どんなお悩みなのか〉〈説明するお相手はどんな人なのか〉等、時と場合によって、ぴったりとハマる言葉や、心に響く表現が自ずと変わってきます。

「こういうことを指している」という本質は同じでも、場合によって、適切な言語表現が変わるのです。

そのため、カードの紹介ページに書いた言葉は、汎用性の高い「めやすとして」の表現であり、必ずしもいつも、とてもわかりやすく感じられる言葉には、思えない場合もあるでしょう。

概念をつかむというのは、「似ているカードの違いを、正確につかむ」ということと近いかもしれません。

例えば、7番の『挑戦』のカードと、5番の『受けて立つ』のカード、11番の『愛と勇気』のカードは、似ている部分のあるカードですね。

3枚とも、何かに立ち向かっていくカードではありますが、行動に至るまでの前提や、「どんな状態でやるのか」という、行動に現れない内面の部分が違います。そして、こちらの内面の部分の違いが大切なのです。

具体的には、7番の『挑戦』のカードは、絶対の自信がある状態で、迷いや自信のなさは、ひとかけらもないのです。とてもまっすぐに、勝ちに行くことに向かっている、〈純粹に挑戦する〉というカードです。

5番の『受けて立つ』のカードは、心を優先する、というところが大切になります。「他にも選択肢はある、これがベストの選択ではないかもしれない、けれど、自分の心が望むこと、心から大切なことを大切にする」という前提があった上で、自分の心が望む形で、力を尽くす。それが、このカードの要です。(テリトリーを守るという意味で、現れる場合もあるでしょう)

11番のカードは、前提としては、何か怖さを感じるもの・乗り越えられないように感じるものがあるのです。「こんなことできないかもしれない、こんなことしたらどうなっちゃうかわからない」そういった怖さの場合もあるでしょう。

それでも、怖さを乗り越えて、その先に挑戦していくのです。だから、怖い気持ちは持ったままでもいいのです。怖くても挑んでいく、というカードです。

例えば、7番のカードがアドバイスで現れた場合は、怖い気持ちや、失敗するかもしれないという恐れは、持っていない方がいいでしょう。純粹に「自分はできる！」と自信を持った状態で挑んでいくのが望ましいです。（もしくは、今いるところから新しい領域に行くという趣旨の場合もあります。周りのカードで判断します。）

このように「どんなカードなのか」という概念を大切に読むと、それぞれ違いがありますね。しかし「何かに立ち向かっていく」という、表面的な部分にだけ意識を向けると、本質や全体像がつかむのが、難しくなります。